B13 北海道における野生動物間での疥癬の流行について

高橋 健一（北海道衛研・医動物）

Sarcoptic mange among wild animals in Hokkaido.

Takahashi K.

ヒゼンダニ (*Sarcoptes scabiei*) は、人を含む各種哺乳類で疥癬を引き起こすことが知られている。本州では以前から野生動物間に本種による疥癬の流行が知られていた。近年、北海道でも、野生動物からヒゼンダニの報告が相次いでいる。北海道でこれまでにヒゼンダニが確認された動物としては、タヌキとキツネの2種である。タヌキからの例としては、1998年に石狩支庁管内当別町で捕獲された2頭から本種が検出されている（浅川、1998）。一方、キツネからの事例としては、塚田ら（1999）が1994年から1998年にかけて網走支庁管内斜里町の知床半島で疥癬の発生を報告している。また、高橋ら（1999）は、1998年1月から1999年3月の間に道内各地で捕獲されたキツネを対象にヒゼンダニの寄生状況を調査し、80頭のキツネからヒゼンダニが分離された。これら北海道内における野生動物からのヒゼンダニの報告例について、とりまとめ報告する。

B14 沖縄本島北部のマダニ類調査

○藤田 博己（大原総合病院・大原研究所）・坪井 義昌（横浜市）

A survey of ixodid ticks in the northern part of Okinawa Island

Fujita H. and Tsuboi Y.

1996年12月に沖縄本島北部の森林11地点と集落1地点から、3属4種156個体のマダニ類を採集した。森林では、カメキララマダニ、キチマダニおよびタカサゴチマダニが植生上から、カメキララマダニがリュウキュウヤマガメから、また集落では飼犬からクリイロコイタマダニがそれぞれ採集された。キチマダニは初記録で、国内の記録としては最も南に位置する。タカサゴチマダニは南西諸島に広く分布しているものの、沖縄本島からはこれが初記録と思われる。これまでの報告によると、沖縄本島で確認されたマダニ類は、この他にタカサゴキララマダニ、オウシマダニ、タイワンカクマダニ、ヤマアラシチマダニ、フクトゲチマダニ、*Haemaphysalis megalaimae*、キジチマダニ、ミナミネズミマダニおよびアカコッコマダニがあり、今回の追加種を合わせると6属13種となる。